



都市ではなく、安芸高田市（自宅）で出来る就労の創出

安芸高田市の存続をかけ、人口減の対策は喫緊の最重要課題であります。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成27年の安芸高田市の人口29,676人が、10年後の平成36年には26,326人と推計され、3,350人の減少を見込んでいます。そのため安芸高田市では、長期総合計画（平成27年～平成36年）に於いて、国立社会保障・人口問題研究所の推定値より1,200人上乘せし、目標人口を27,500人と定めるところであります。この目標を達成するには、学校教育のレベルアップ、子育て支援の充実、空家等の有効活用（働く場（就労）の確保等の事業の展開が必要であります。なかでも働く場（就労）の確保は定住の必須の条件であると認識しています。

総務省では、人口構造の急激な変化の中で、個々の働く意欲に応え、その能力を遺憾なく発揮し活躍できる環境の実現や女性・高齢者・障害者の就業機会の拡大、出産・子育て・介護と仕事が両立出来る状況を創出し、労働力人口の減少をカバーするためクラウドソーシング・テレワークの推進

をしています。また、この事業の推進により、家族と過ごす時間・自己啓発の時間増加や安心して子育てが出来る環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランスの実現が可能であり、U・I・ターンの就労対策・柔軟な働き方により有能な人材確保・環境負荷軽減・営業効率の向上やコスト軽減が期待できるとしています。

安芸高田市では、3年前に光高速通信網を全市に整備しました。これは、市民への情報連絡（お太助フォン）への活用だけに設置したものではありません。私は、光高速通信網は都市と過疎地（中山間地）の差を無くする絶好の道具と捉えています。光高速通信網はこれまで都市部の定番であった在宅での物販を中山間地で可能にしました。企業（事業所）サテライトオフィスの誘致、仕事のための誘致・家庭で出来る仕事の創出（クラウドソーシング等）を可能にしました。これらの活用は、これまで不可能であった都市部に対抗出来る手段として、有効に活用し、定住に繋げて行きたいと思っています。これら事業の効果的普及拡大を図るためには、産官学の連携を強

め、市民向けの推進セミナーを実施する必要があります。いずれにしても、光高速通信網を活用した、クラウドソーシング等は、場所や時間にとられない柔軟な働き方です。一方で、個人情報等のセキュリティ対策を十分に施す必要もあります。これらの対策を十分に講じて、この事業を推進すれば、安芸高田市の人口減対策（定住対策）の一役を担うことに、間違いなく確信しています。安芸高田市では「クラウドソーシング（テレワーク）」を平成29年度事業の中で、新規の重点施策と位置づけ、家庭で出来る、雇用の機会の増加を図って行きたいと思っています。



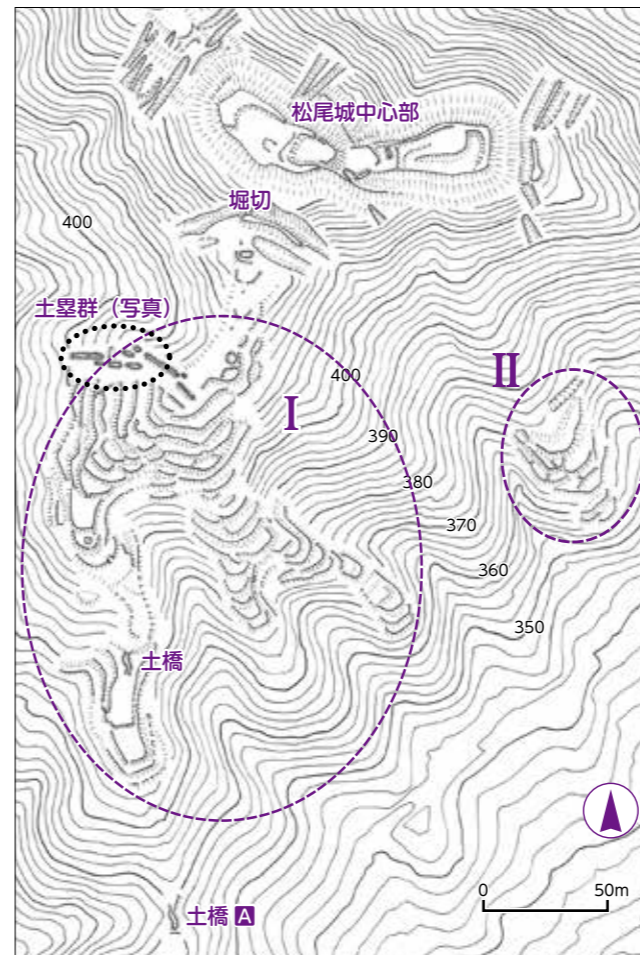
●題字：安芸高田市長 浜田一義

歴史紀行

安芸高田

シリーズ「お城拝見！」第73回 松尾城 (南郭群) 《美土里町横田》

安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 秋本 哲治



松尾城南郭群略測図 (作図 秋本哲治)

2010年の第2回で紹介した松尾城。地元の方の情報で再度調査を行い、従来の城域よりも遥かに広大であったことが判明しました！取り急ぎ2回に分けて概要を速報します。



松尾城遠望 (南東側より撮影)



位置図 (国土院標準地図より)

立地
今回、新たに確認したのがIとIIです。Iは松尾城中心部南側の堀切の先に派生する、3つの尾根上に広がります。IIはIの東の尾根上にあります。

歴史
戦国初期に安芸北部から石見に勢力を誇った高橋氏の居城です。築城時期は不明ですが、1516年、毛利興元（元就兄）がここを攻めていきます。その後、1529～30年頃に、元就と備後の和智氏が大内軍とともにこの城の高橋弘厚を攻め、落城されたことが知られています。

城跡
I・IIいずれも粗い整地の小さな郭が多数あり、大きな郭が連なる中心部とは異なる構造です。しかし範囲は広大で土橋Aまで城域であったと考えられます。また一部に土塁が断片的に複数残り、その多くが斜面にある「豎土塁」状態で、役割は謎です。この南側郭群は今の県道側、吉田方面に対して備えであり、高橋氏が元就に攻められた際に築いた可能性も十分に考えられます。引き続き、北側の尾根の調査を進めます！



斜面に残る謎の土塁群 (東側から撮影)

- 【登城ガイド】
- ・標高……………457m (中心部)
 - ・比高……………150m
 - ・史跡指定……………県史跡
 - ・築城者……………高橋氏
 - ・所要時間……………西山麓から約30分